

基調講演者 徳島県勝浦郡上勝町役場参事 星場 真人 プロフィール



星場真人さんは、上勝町の建設課長、まちづくり推進課長等を歴任、上勝町の活性化のリーダーとして長年にわたって活躍している。上勝町は徳島市街地から勝浦川沿いを上流へ車で 40 分。山々に囲まれた人口約 2100 人、高齢者率 46% というこの町は、「世界に誇れるまちづくり」をスローガンに 1991 年には「ふるさとづくり内閣総理大臣賞」を受賞している。全国的に有名な葉っぱビジネス「彩産業」、有償ボランティア輸送、ゼロ・ウエスト宣言など、役場と住民が協力して取り組む工夫がいっぱいある。ゴミ処理施策では野焼を禁止し、ゴミを住民の手で分別し、ステーションに持ち込む仕組みに変えた。分別した資源物の情報を集めて協力依頼した結果、34 種類分別（現場では 55 種類もの分別だという）となった。かつて年間 350 トン発生していた上勝町のゴミの量は、いまや年間 60 トン程度（お金を払って焼却・埋立している量）となっている。

講演者紹介：栗原 裕治（里山シンポジウム実行委員会副代表）



皆さんこんにちは。実行副委員長の栗原と申します。今日は上勝町の方から、星場さんに今朝早くに徳島空港を発ってこちらに来て頂きました。私が前座で星場さんのご紹介をしたいと思います。上勝町という名前を聞いて思い当たるのは、「いろどり産業」という葉っぱビジネスですね。上勝町は、高齢化率が非常に高い人口 2000 人程の町なのですが、お年寄りが山から葉っぱを採ってきて、それを都会の料理のツマに提供供給しているという葉っぱビジネスで、非常に大きな年寄りの生きがいを生むと共に、経済的な効果も上げ、テレビ等にもよくご紹介されているところです。

私が初めて星場さんとお会いしたのは、ちょうど 2 年ほど前になります。上勝町の取り組み、特にゴミに関わる「ゴミ減量作戦」という言葉に惹かれて、私どもの仲間 4 人で四国の方に行き、上勝町を訪問して星場さんのお話を聞かせて頂きました。その時のお話が非常に面白かったのです。何が面白いのかというと、行政の職員の方が次々にアイデアを出し、そして出すだけではなく実際に行動して取り組んでいるのです。

例えば、有償ボランティア輸送という、福祉車両等をボランティアの方々が有償でも運行できるようにするしくみを、全国に先がけていち早く特区という形で申請、具体化したのが、ここ上勝町なのです。これは、今では千葉でもずいぶんと行われるようになってきています。このように、アイデアマンが町長を始め行政職員の中にそろっているということで、ぜひこれは千葉でも紹介したいと思い、実行委員会の中で 2 年前に訪問した際の話をし、今回、星場さんにその取り組みをお話いただく運びとなりました。星場さんには今回のお話を非常に快く快諾していただき、今朝早くから遠路はるばる千葉までお越しいただきました。星場さんには、約 50 分お話していただくと思います。では、星場さん、どうぞよろしくお願ひします。